

表① 各年齢期における子どもの頃の体験

<p><b>[自然体験]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと</li> <li>・海や川で泳いだこと</li> <li>・太陽が昇るところや沈むところを見たこと</li> <li>・夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと</li> <li>・湧き水や川の水を飲んだこと</li> </ul>	<p><b>[動植物とのかかわり]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米や野菜などを栽培したこと</li> <li>・花を育てたこと</li> <li>・ペットなどの生き物の世話をしたこと</li> <li>・チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと</li> <li>・野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと</li> </ul>
<p><b>[友だちとの遊び]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かくれんぼや缶けりをしたこと</li> <li>・ままごとやヒーローごっこをしたこと</li> <li>・すもうやおしくらまんじゅうをしたこと</li> <li>・友人とケンカしたこと</li> <li>・弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと</li> </ul>	<p><b>[地域活動]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の小さい子どもと遊んであげたこと</li> <li>・近所の人に叱られたこと</li> <li>・バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと</li> <li>・祭りに参加したこと</li> <li>・地域清掃に参加したこと</li> </ul>
<p><b>[家族行事]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の誕生日を祝ったこと</li> <li>・お墓参りをしたこと</li> <li>・家族の病気の看病をしたこと</li> <li>・親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと</li> <li>・家族で家の大掃除をしたこと</li> </ul>	<p><b>[家事手伝い]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと</li> <li>・家の中の掃除や整頓を手伝ったこと</li> <li>・ゴミ袋を出したり、捨てたこと</li> <li>・洗濯をしたり干したりしたこと</li> <li>・食器をそろえたり、片付けたりしたこと</li> </ul>

表② 体験を通して得られる資質・能力(体験の力)

<p><b>[自尊感情]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことが好きである</li> <li>・家族を大切にできる人間だと思う</li> <li>・学校が好きである</li> <li>・今、住んでいる町が好きである</li> <li>・日本が好きである</li> </ul>	<p><b>[共生感]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休みの日は自然の中で過ごすことが好きである</li> <li>・動物園や水族館などに行くのが好きである</li> <li>・悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる</li> <li>・友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる</li> <li>・人から無視されている人のことが心配になる</li> </ul>
<p><b>[意欲・関心]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと深く学んでみたいことがある</li> <li>・なんでも最後までやり遂げたい</li> <li>・経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい</li> <li>・分からないことはそのままにしないで調べたい</li> <li>・いろいろな国に行ってみたい</li> </ul>	<p><b>[規範意識]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う</li> <li>・交通規則など社会のルールは守るべきだと思う</li> <li>・電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う</li> <li>・電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う</li> <li>・他人をいじめている人がいると、腹が立つ</li> </ul>
<p><b>[人間関係能力]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人前でも緊張せずに自己紹介ができる</li> <li>・けんかをした友だちを仲直りさせることができる</li> <li>・近所の人に挨拶ができる</li> <li>・初めて会った人とでもすぐに話ができる</li> <li>・友だちに相談されることがよくある</li> </ul>	<p><b>[職業意識]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある</li> <li>・大人になったら仕事をするべきだと思う</li> <li>・できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う</li> <li>・お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う</li> <li>・今が楽しければ、それでいいと思う</li> </ul>
<p><b>[文化的作法・教養]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う</li> <li>・目上や年下の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる</li> <li>・ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ</li> <li>・はしを上手く使うことができる</li> <li>・日本の昔話を話すことができる</li> </ul>	

H26.3.25

# 教育(を)を考える

飛んでくるボールをよけずに目を俯ついたり、転んで顔から突っ込んだりするなど、思わぬけがをする子が増えている。身を守る力をどう育むか。40年以上にわたって子どもと向きあってきた川和保育園(横浜市)の園長、寺田信太郎さんに聞いた。  
(共同通信編集委員・山田博)

## 大人が問われている

遊び尽くせぬワンダーランドのような園庭に立ち続けてきた寺田さんのひと言がくつと

「ボクは1歳児クラスでも、火の付いた取取り線香をむき出して置いている。小さい子でも1回でも熱い思いをすれば、もう二度と触らない。危険を察知する力は、子ども自ら経験して獲得するものだ」

保育の現場では、子どもにけがをさせないことが

大前提だが、それだけでいいのか、という強烈な問い掛けた。困るのは、危険を察知して身を守るすべを知らないまま育つ子どもたちではないか、というのである。

確かに、切り傷や擦り傷など子ども時代のけが体験は、人生の大きな財産になる。入園説明会で親に「骨折までは許してほしい」と言い切れるのも、その体験が後に生きるための確信があるからだろう。

子どもが小さな危険にチャレンジできる環境をどう用意できるか、手を出さずにじっと見守れるか。大人が問われているのだ。



川和保育園(横浜市)園長 寺田 信太郎さん

てらだ・しんたろう 川和保育園園長。大学中退後、両親の創設した同保育園に。1971年から園長。子どもが育つ保育園を目指したユニークな園庭保育で知られる。著書に「子どもと親が行きたくなる園」(共著)。44年、横浜生まれ。

「さしはのほれないなあっていうきもちだったんだけど、だんだん、のほりたいなあっていうきもちになって、そしたらのほれたんだ」

興味さえ持てば、子どもはすごい力を出す。困難を乗り越えた時の達成感は格別だ。子どもの力を信じて待てるかどうか、ここが大人のがんばりどころだ。

# 「怖さ」体験危険を知る

間こそ、子どもが危険を感じ、体験している貴重なときだ。遊びの中で、この感覚をじっくり味わうことが、何よりも「危険を知る」ことになる。そんなとき大人は、じっと見守りはするが、一切手を出さない。

自ら感じる以外に知る方法は少ない。

大切なのは、ちゅうちよや葛藤があつて「それでもやりたい」と自分の意志で踏み出していくフロセツだ。

「大丈夫か、本当にできるか」怖さや不安を乗り越える力があるか、子どもは繰り返し自分に問うている。こんなとき大人は、口をはさんではいけない。

危険を察知して回避する能力は言葉では教えられない。子どもがやられるのでなく、やりたいことを書いてみる。

園庭には、ハンモックでお昼寝できる高さ80センチのツリーハウス、5階建てのタワー……とさまざまな遊具があるが、階段やはしこはない。遊びたいと思った子が、壁の隙間やロープを手がかりにして、自分に合ったルートを探して登るのがうちのやり方だ。

いへん子どもでも、怖いと思えば無謀なことはいない。

高いところにいるのに怖さを感じないというように、体験がなくて自分の状況が分からないのが一番危ない。危険だと思えば、子どもでも、自分から落ちるような所には行かない。

小さなけがを重ねることで子どもは学び、危険かどうかが、自分で判断できるよになるのだ。

## ユニークな園庭保育

安全な保育とは、子どもを危険から遠ざけることではない。自分の力に応じた小さな危険を体験することで身を守る感覚が養われ、それがやがて大きな事故やけがを防ぐ力になるのだ。何の危険も体験しないで、それを回避、克服する知恵が身につくはずもない。

うちの保育園の園庭にあるログハウスは、キッチンやテーブルがあり、子どもにとって魅力的な空間だ。だがそこに行くには、2メートル以上の切り立った石垣をよじ登らなければならない。

簡単に登る子もいれば、ずるずる滑り落ちる子もいる。何度もチャレンジする子もじっと見ているのは、いったん断念したがあとでめきれない子だ。

ロープにぶら下がり3メートルの高さから空中移動するロープウエーでも、じっと顔をサッと滑る手がある一方で、スタート台で固まって動けない子もいる。

年長児がきんぎょと遊ぶ姿に、「面白そう」「僕もできるよ」となりたいたいという強い思いをくぐらせた子どもたちだが、いきなり挑戦するとなやみ「怖」「怖」という気持ちが出はじめる。

「やりたいけど怖い」「怖い」「怖い」「怖い」

葛藤し、ちゅうちよの「怖」

2014年3月10日(月)午後10時00分～10時49分  
総合

被災者 こころの軌跡～遺族たちの歲月  
～(仮)



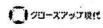
クロースアップ現代

毎週 月～木曜 午後7時30分～7時56分

放送予定

総合

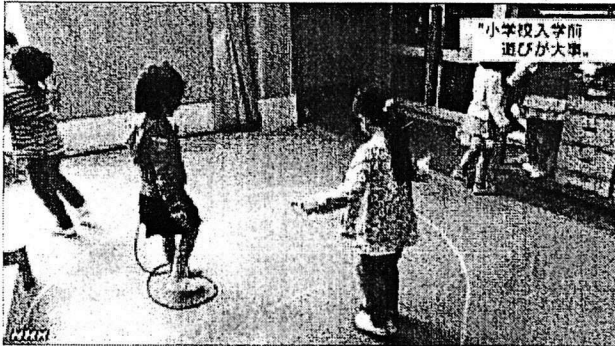
2014年2月25日(火)放送



未定

ニュース詳細

## 「よく遊ぶ子は賢くなる」調査まとまる 2月13日 5時30分



K10052073011\_1402130706\_1402130727.mp4

いわゆる「難関大学」に合格するなどした経験がある人は、そうでない人に比べて、小学校に入学する前に思い切り遊んだり好きなことに集中したりしていた割合が高いとする調査結果がまとまりました。

調査に当たった専門家は、「遊びのなかでさまざまな力を身につけることがその後の学習意欲を育む」と指摘しています。

この調査は、発達心理学が専門のお茶の水女子大学の内田伸子名誉教授らが20代の社会人の子どもを持つ保護者1000人余りを対象に行いました。

この中で、「小学校入学前の子育てで意識していたこと」について尋ねたところ、偏差値68以上のいわゆる「難関大学」に合格するなどした子どもの保護者の35.8%が「思いっきり遊ばせること」と回答したのに対し、そうでない子どもの保護者では23.1%にとどまっていました。

また、難関大学合格者などの保護者の24.1%が「好きなことに集中して取り組ませること」と回答したのに対し、そうでない子どもの保護者は12.7%となっていました。

さらに、「子どもの遊ばせ方」について、難関大学合格者などの保護者の28.8%が「自発性を大切にしたい」と回答したのに対し、そうでない子どもの保護者は16%となっていて、小学校入学前の時期に遊びを通じて自発性や集中力を養うことがその後の学力向上につながる傾向を示す結果となっています。

内田名誉教授は、「小学校入学前は五感を使うことで脳が発達する大事な時期で、関心を持ったことをすぐ吸収できる力があります。遊びのなかで楽しみながらさまざまな力を身につけることがその後の学習意欲を育むことにつながる」と話しています。